No.17
2012.3
東邦看護学会
NEWSLETTER

# 第11回東邦看護学会学術集会をおえて

第11回東邦看護学会学術集会長　竹内 千恵子
（東邦大学看護学部　東邦大学看護キャリア支援センター）

学会に移行して2回目になる第11回東邦看護学会学術集会が平成23年12月17日に東邦大学看護学部のキャンパスで開催されました。

開催にあたり、昨年3月11日の東日本大震災の犠牲者と、被災してまだなお苦悩の中にいらっしゃる皆様へのお見舞いの気持ちを込めて黙祷を捧げました。

今回、「チームで育み未来につなげる看護の力」をメインテーマとしました。これは、高度かつ専門的な治療が提供されている現在、医療チームの中核として活躍できる看護職とその育成が期待されているからです。学会には近隣の看護関係者等を含め466名の参加登録をいただき盛会の内に終わることができました。

会長講演は、「チーム力で人を育てる」をテーマに、なぜ組織や個人ではなくチームで育てるのか、その意味は何か、さらにキャリアとはなにか、人生の中で主体的にキャリアを選び取っていく事の意味を皆様と一緒に考えました。

特別講演には、札幌市立大学副学長中村恵子先生をお迎えして、「変化する社会が期待する看護実践能力―看護基礎教育の役割と臨床との接続」をテーマに、臨床と基礎教育との接続についてご自身の取り組みを交えてお話し頂きました。

交流集会は看護実践をふまえ参加の皆様が身近に語り合う場として、今回久しぶりに企画いたしました。「災害看護」「感染管理」「がん看護」「医療安全」の四つのテーマをご提案頂き、実践経験から、あるいは共通の課題として、専門家を招いた新しい取り組みについてなど多くの方に参加して頂き、活発な意見交換がおこなわれました。90分の時間をとりましたが、もっと意見交換がしたかったというご意見をいただくほど会場は熱気にあふれていました。

一般演題は口演と示説をあわせた24題で、今年の学術集会賞に2演題が表彰されました。

今回は、インターネットを使用しての演題登録、交流集会の企画、学術集会プログラムへの東邦看護学会総会の組み込み、東邦関連以外の施設への参加案内など、学会としての体裁の整備に向けたいくつかの試みを行いました。いろいろ反省点や改善点はありますが、学会として内容の充実を図る上でこれらが貢献できれば幸いだと思います。

最後になりましたが、学会開催に際しご協力頂いた皆様に心からお礼申し上げます。

# 特別講演「変化する社会が期待する看護実践能力」
## ー看護基礎教育の役割と臨床の接続ー

### 特別講演から得たエネルギー

東邦大学看護学部 **遠藤 英子**

第11回東邦看護学会にて札幌市立大学看護学部長である中村惠子先生よりご講演を頂いた。先生は看護基礎教育と臨床とのお立場を同時に経験した時期が10年と豊富な経歴をお持ちである。エネルギッシュなご講演は時間の経つのも忘れ、聴き入った。

看護教育も大学化されたが、その卒業生の実践力が問われている。また、新卒者への研修制度は依然、努力義務である。社会では患者意識の変化、入学する学生達の変化が激しい昨今、看護師の育成で重要なのは看護基礎教育と臨床教育の接続が効果的な人材育成へとつながる。

研究は臨地に根差したものを協同で行う。学校側は卒業時到達目標を提示する。学内演習と臨地との連携での教育を行う。教員は看護実践能力を落とさず、臨床看護師には教育実践能力として臨床指導力、教育力の研鑽を求める。これらの関連が人事交流へとつながる、などの示唆を頂いた。

世の中の動き、つまり国の施策と我々の活動は関連し、診療報酬の改定次第で、組織構造も変わりうる現実がある。看護職も世の中の変化を的確に捉え、組織的に活動しよう、と、エネルギーを頂いた。

# 交流集会

## 交流集会に参加して

### がん看護：各施設での緩和ケアチームの活動及び看護師教育について

東邦大学医療センター佐倉病院　**塚本 佳子**

私は「がん看護交流集会」に参加し、今回のテーマである「各施設での緩和ケアチームの活動及び看護師教育」について当院の現状を発表させていただきました。当院の緩和ケアチームはまだまだ院内での広い活動には至っておりませんが、大森、大橋病院では、緩和ケアチームがしっかりと組織化されており、リンクナースに対する教育も積極的に行われている現状を聞き、新たな刺激を受ける良い機会となりました。会場とのディスカッションではコミュニケーションに対する質問も多くみられ、がん患者様との関わりの難しさを感じつつも、その意識の高さを伺うことができました。交流集会に参加し、今後、目標とすべきチーム像が見えてきたこと、看護師教育としてコミュニケーションに対する期待が高いことなどがわかり、新たな目標を見出す有意義な時間となりました。

## 交流集会「医療安全」を振り返って

### 医療安全：看護の質を落とさず、時間外勤務を減少させることはできるか

東邦大学医療センター大森病院　**石原 喜代美**

「看護の質を落とさず時間外勤務を減らすことはできるか」というテーマで、交流集会を開かせていただきました。看護師の過労死が労災認定されてから時間外勤務は全国的な問題となっています。当病棟でも昨年7月より、看護学部中原先生と早稲田大学経営システム工学科の小松原先生にご協力いただき、長年の懸案であったこの問題の解決に向けて取り組んできました。効率性と安全性を重視する経営工学的な視点から「業務の可視化」と「終礼の導入」を中心に改善に努めてきた結果、より安全に時間外勤務の短縮を図ることができました。交流集会での意見交換を経て、さらなる改善に向けて知恵と活力をいただいたことに企画者一同感謝しています。

## 交流集会 3：感染管理を終えて

### 感染看護：病院スタッフ全員が感染対策チームとして活動するための取り組み

東邦大学医療センター大橋病院　**松岡 千賀子**

今回の交流集会では、看護実践をふまえた実際の東邦大学医療センター 3 病院の感染管理の実践・指導の取り組みや今後の課題を共有しながら意見交換を行いました。

「組織的な耐性菌対策」、「教育プログラムを活用した感染対策」、「リンクナース活動の活性化の取り組み」と 3 病院共テーマは異なりました。しかし、感染対策が適切に取り組める組織支援、継続できる環境支援の共通した重要性を再認識でき、充実した交流がはかれました。

今後も 3 病院で情報を共有し、感染対策の看護ケアの質の向上をめざし、看護実践に活せるような感染管理の活動を実践していきたいと思いました。

## 交流集会[災害看護]「東日本大震災から学ぶ」に参加して

### 災害看護：東日本大震災から学ぶ

東邦大学佐倉看護専門学校　**伊藤 茂理**

私自身は積極的な支援ができなかったため、贖罪の気持ちから参加させていただいた。シンポジウム形式であったが、ご自身の実家も被災したという大森病院の宮地富士子師長のお話が印象に残った。

東京 DMAT の出動要請からの速やかな出動と現地での活躍に感動すると共に、支援する体制が整っているのに、支援を断わってしまうという被災地の混乱が印象的だった。今後の備えとして、「アクションカード」という災害時の実際の行動を分担してカードに記載したものを紹介していただいた。これを部署ごとに作ると、誰もがその通りに動け、円滑な避難ができそうである。次を考えたくはないが、患者や学生の安全のために災害への備えを充実させたい。

# 学術集会賞受賞者

## テーマ 透析援助場面における援助者のゴーグルへの血液飛散の実態

府川真理子　小田原循環器病院
安岡　砂織　東邦大学看護学部
砂田好至子　小田原循環器病院
遠藤　英子　東邦大学看護学部

## テーマ 脳神経外科疾患患者への笑い療法の効果
～遷延性意識障害患者の身体的変化～

新井田智子　東邦大学医療センター大橋病院
菊池香乃子　東邦大学医療センター大橋病院
山下　和美　東邦大学医療センター大橋病院
長能みゆき　東邦大学医療センター大橋病院
岩渕　　聡　東邦大学医療センター大橋病院

# 研究奨励金受賞者

## テーマ 急性期治療を受ける高齢患者に対する生活支援のために
看護師が実施しているヘルスアセスメントと看護実践の現状について

川崎 タミ
東邦大学医学研究科
看護学専攻基盤･実践看護分野
博士課程２年

# 『第 12 回東邦看護学会学術集会』にむけて

第 12 回東邦看護学会学術集会会長　寺口 恵子
（東邦大学医療センター佐倉病院）

医療技術の進歩、医療ニーズの多様化、患者の高齢化、平均在院日数の短縮など、医療現場は激変期に入り、一人ひとりの患者の状態に合わせて、さまざまな医療関連職種の専門家たちが連携し、治療やサポートを進めていく「チーム医療」の実践が広がっています。次回は、多職種連携の中で「心によりそう看護」を実践していくために私達看護職は何をすれば良いのかを考える機会としたいと思います。

第12回東邦看護学会は、初めて佐倉地区で開催する予定にしております。皆様には是非参加していただき、お互い知り合い、語り合い多くの情報を持ち帰っていただき、日頃の看護業務･教育に活かして頂ければ幸いです。

NEWS LETTER
ニュースレター事務局
〒143-0015　東京都大田区大森西 4-16-20
TEL 03-3762-9881
FAX 03-3766-3914